【資料2】

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名：　観光部

1　指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ （伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4）
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重　代表取締役　濱田典保
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1. サンアリーナの事業の実施に関する業務 2. サンアリーナの施設等の利用の許可に関する業務 3. サンアリーナの利用料金の収受等に関する業務 4. サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5. 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
R3	A		○施設の経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するほか、計画的な設備投資により施設の利用環境の改善を図った。 ○猛暑で屋外活動制限が増す中、空調設備を備える施設の特性を生かした誘致・受入れを行うとともに、令和6年度に作成した独自の「熱中症対策手順書」を活用し、利用者の安全・安心に資する適切な施設管理を行った。 ○三重とこわか国体・とこわか大会の中止が決定されたが、開催に向けて、関係者との調整を適切に行い、関係団体の活動にも積極的に協力した。（令和3年度）
R4	A		
R5	A		
R6	A		
R7	A		

3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
R3	B		○新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用人数は回復傾向にあり、令和6年度及び令和7年度には、感染症の影響を受けた令和3年度と比較して2.5倍以上となる18万人を超えた。 ○大型イベントであるコンサートの誘致に注力し、5か年で12件のコンサートが開催されるなど、利用者の増加に貢献した。 ○自主事業では、新たに「ヴィアティン三重ホームゲーム」のプロ公式戦の開催のほか、「伊勢の森トレイルランニングレース」やボルダリング施設を活用したイベントを実施することで、利用者の増加に寄与した。
R4	B		
R5	B		
R6	B		
R7	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況（全期間）

（単位：円）

収入の部		支出の部	
指定管理料	1,047,248,000	人件費	343,963,982
利用料金収入	370,985,835	水光熱費	258,640,653
自主事業収入	56,798,843	その他一般管理費	678,222,378
営業外収入	39,417,492	自主事業経費	64,953,747
特別利益	174,209	消費税	48,027,707
合計　(a)	1,514,624,379	合計　(b)	1,393,808,467
収支差額　(a)-(b)	120,815,912		

※参考

利用料金減免額	34,771,413

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値
R3	C		平均稼働率（メインアリーナ）	60.0%	45.1%	53.5%	57.2%	54.3%	56.4%
			平均稼働率（サブアリーナ）	70.0%	62.3%	66.3%	69.0%	67.6%	65.0%
R4	C		平均稼働率（会議室等）	20.0%	11.0%	14.0%	18.8%	19.2%	20.1%
			自主事業イベント数	30	18	30	34	35	31
R5	C		全館年間利用件数	500	387	510	494	483	556
			利用人数（アリーナ）	－	51,393	106,616	122,457	163,618	154,690
R6	C		利用人数（会議室等）	－	10,027	14,960	14,163	15,793	20,795
			利用人数（トレーニング室）	－	5,348	5,209	4,375	4,264	4,202
R7	B		利用人数（フィットネス）	－	4,101	4,078	3,165	2,499	2,579
			利用人数（合計）	300,000	70,905	130,863	144,160	186,174	182,266

全期間におけるコメント

〇メインアリーナ及びサブアリーナの平均稼働率は、目標値に近い水準で推移しているものの、目標値を達成できていないため、さらなる利用促進の取組が求められる。一方で、会議室等の平均稼働率は、毎年増加し、令和7年度に目標値20%を達成した。さらに、会議室の利用人数も、令和7年度は2万人を超えるなど増加傾向にある。

〇自主事業イベント数は、新型コロナウイルス感染症5類移行後の令和3年度を除いては、すべて目標を達成している。

〇全館年間利用件数は、令和7年度に目標を大きく超えるなど、利用者の増加に向けて積極的に取り組んでいる。

〇利用人数（合計）は、新型コロナウイルス感染症5類移行後、回復傾向にはあるが、目標値の30万人には及んでいない。

6 総括評価

〇施設の経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するほか、計画的な設備投資により施設の利用環境の改善を図った。

〇猛暑で屋外活動制限が増す中、空調設備を備える施設の特性を生かした誘致・受入れを行うとともに、令和6年度に作成した独自の「熱中症対策手順書」を活用し、利用者の安全・安心に資する適切な施設管理を行った。

〇メインアリーナ及びサブアリーナの平均稼働率は、目標値に近い水準で推移しているものの、目標値を達成できていないため、さらなる利用促進の取組が求められる。一方で、会議室等の平均稼働率は、毎年増加し、令和7年度に目標値20%を達成した。

〇全館年間利用件数は、令和7年度に目標を大きく超えるなど、利用者の増加に向けて積極的に取り組んでいる。一方で、利用人数（合計）は、新型コロナウイルス感染症5類移行後、回復傾向にはあるが、目標値の30万人には及んでいない。

以上のように、管理業務の実施状況や施設の利用状況については評価できるものの、一部の成果目標は十分に達成されているとは言えないため、今後はさらなる目標達成に向けて、利用者のニーズを注視しながら、創意工夫ある取り組みで利用者の定着を図ることがより一層求められる。
さらに、開設から31年が経ち、老朽化する施設・設備に対して、施設利用に支障をきたすことのないよう、計画的に修繕等を進めていく必要がある。

※「2 管理業務の実施状況」の自己評価
:
「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※「3 施設の利用状況」
「5 成果目標及びその実績」の自己評価
:
「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

※ 県の評価
:
「＋」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「－」(マイナス)→ 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。